

2017年度 学校法人 三幸学園 札幌こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本間 正道

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 阿部 陽介

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

<重点指導目標>

「生活習慣を定着させる～時間管理ができる生徒・整理整頓、清掃ができる生徒・挨拶ができる生徒」

<振り返り>

- ・精皆勤率は前年度に比べ上昇しており、学校生活に通う習慣は改善がみられる。
- ・挨拶について。クラス代表(生徒会)の生徒を中心に挨拶運動を実施した。現状、来客に対して挨拶ができる生徒が大半である。誰にでも自然にできることを目指して今後も継続した働きかけをしていきたい。

② 学校関係者評価委員会コメント

(もっと力を入れるべきところはどこか)

中村委員：社会に送り出すまでにどういったサポートがあるかを、より具体的に表していただけると高校生、保護者へ学校を勧めやすい。保護者としては就職率や資格取得率に関心を寄せる。生徒は雰囲気重視しやすい。

阿部委員：就職率も気にするが、就職はできて当たり前。離職率を重要とする傾向がある。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

●学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの周知

（生徒に対しては入学直後に行事を通して周知をしている。入学後は「スタプロ振り返りシート」を使用し、入学時に学んだ「当校で大切にしていること、社会で求められる素質」などができているかをチェックする機会を設け、HRなどで実施している。保護者に対しては今年度保護者会にて生徒が学習する「未来デザインプログラム」という授業の一部を体験してもらうことで当校での指導方針を伝える場を設けたが、欠席した保護者などに対するフォロー体制については改善の余地があると考え）

② 今後の改善方策

●保護者宛文書送付の際に当校の理念について触れる機会を設ける

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（理念を実感する機会はあったか）

清水委員：オープンキャンパスを手伝っている生徒以外は、理念を聞く機会はあまりなかった。

（幼稚園ではどのように理念を浸透させているか）

清水委員：ガイドブックとHPに大きく載せている。4月にクラスだよりで保護者様へ周知している。

（高等学校としての取り組みはあるか）

中村委員：掲示や保護者通信に掲載していた。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

●情報システム化等による業務の効率化が図られているか

（規定や方針はしっかり示されており、適切に機能していると思われる。

業務の効率化については教務事務を導入し改善を図っているが、引き続き改善に向けた取り組みが必要である。）

② 今後の改善方策

●教務事務が導入され改善が図れている面はあるが、情報システム化については今後進めていく。

●削減できる業務を各校務分掌で見直し、スマート化させる

③ 特記事項

2017年3月に文部科学省より報告された「これからの専修学校教育の振興のあり方について(報告)」を受け、当校をはじめとする学校法人三幸学園全体で「総授業時間を確保しつつ、社会環境の変化に対応し従来の授業方法だけではなく、柔軟な授業設計ができる多様な魅力ある授業を展開し、一層の教育効果を高める」ことを目的として、1コマ当たりの授業時間、教育課程等各種制度の変更も含めて検討している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

●教員の資質向上に向けた取り組み

(保育および関連分野の知識を有する教員とそうでない教員の差が見られる。差を埋められるような取り組みを行いたい。)

●生徒指導についてのスキルアップ

(敬語指導や欠席についての動機づけの引き出しを全教員が持てるようにしたい)

●魅力的な授業にするための知識・スキルの向上

② 今後の改善方策

●新人研修を含めた校内研修の実施

●エリア担当より園に対して「社会人として求められる資質」をヒアリングし、学校で共有をしたうえで指導方針を検討していく

●外部講話の実施

●全体会議等で行う研修を増やし、学校全体で「魅力のある授業」を目指す。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(当校で学んだことで、現場で活かされていること、在学中に学びたかったことは)

清水委員:実践の授業が充実していた。実技的なものはとても活用されている。子どものカリキュラム表など、実際に行うことになる書き物の紹介をもう少ししてほしかった。

(実習生について)

清水委員:最近の実習生の書き物は内容が薄い。記載量も少なく、誤字・脱字・話し言葉で書いていることがある。実習生に本を読むようにアドバイスしている。また、笑顔がない。子どもと接している際も笑顔が少ない。気づかいも不足しているように感じる。園側としては子どもと元気に遊んでくれることが一番重要。

(高校生は保育士のこういったところに魅力を感じているのか)

中村委員:子どもが好き、自分がいた園の先生にあこがれていたが特に多い志望理由であった。

(外部の学校の状況について)

阿部委員:ベテランの先生が多い短大では、若手職員がいた場合、ベテランの先生が徹底指導している。その話が高校の先生の耳にも入り、やはり良い印象を抱いているようだ。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- 卒業生の動向を把握しきれていない。異動・退職した職員とやり取りをしていた生徒は特に動向が不明。
- 退学率の低下に向けた働きかけの強化

② 今後の改善方策

- 園個票(園毎の実習受入、就職履歴)で情報を残し、定期的な園訪問と情報の更新を実施。
- 「全教員が全生徒を卒業まで見ていく」という意識の強化。生徒の些細な変化にも気づき共有することができるような体制の構築。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(他校の退学の状況はどうか)

阿部委員:同じような状況であると思われる。

(卒業生同士の交流はあるか)

清水委員:SNSでつながっているひとは多いが、気づいたら仕事を辞めている人が何人かいた。

(その他)

清水委員:高校生の中で、資格がなくても保育の仕事はできる。学ぶ必要はないという意見が広がっている。学んでいる人の中にも、資格を取得する意義を見出せなくなる人もいるのではないかと。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	2
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

●学生相談に関する体制は整備されているか

（スクールカウンセラーはいるものの、希望者は自ら申し込みしアポイントをとる体制であるため、話を聞いてほしいがカウンセラーのところまで行く勇気をなくしてしまう生徒もいる可能性がある。）

●学生の健康管理を担う組織体制はあるか

（専門知識を持っている教員が常駐している組織ではない。健康診断などの定期行事は実施しているが、常日頃の体調管理についての定期的な注意喚起などはできていないのが現状）

●保護者との連携

（家庭環境の悪化により不登校状態になっている生徒が増加しており、対応に苦慮している）

② 今後の改善方策

●スクールカウンセラーによる教員対象のメンタルヘルスケアについての講義を実施

●エリア担当による、卒業生動向の把握。同窓会の活用。

●保護者への健康維持に関する協力依頼。

●保護者会の参加率を向上することで、より多くの保護者に対して当校の教育理念や指導方針についての理解を促す（告知開始時期の検討、実施曜日の検討など）

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（高校では学校に通えていない生徒に対してどのようなサポートを行っているか）

中村委員：ひとつひとつの課題をクリアすることによって達成感を味わってもらっている。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

- 防災に対する体制は整備されているが、一層の周知が必要である。
- 施設等については、施設ありきでやりくりしている部分もあるので、教育カリキュラムを検討していく必要もある。施設実習の際に実習先が確保できていない時期もあるため、実習巡回以外でも、企業訪問が必要となってきたように感じる。

② 今後の改善方策

- 防災体制を周知する場を設定する。（全体会議において）
- 周知する時間を設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- 選ばれる学校であるための努力を継続すること
- 入学後のギャップを生まない広報の仕方

② 今後の改善方策

- 検定取得率・就職率向上
- 卒業後も長く現場で活躍できる人材になるような人間教育の強化
- 入学後の自分自身をイメージできるようなツールの作成

③ 特記事項

18歳人口の減少が続く今、生徒募集はここ数年の課題である。

北海道内における保育分野の専門学校としては在籍者数が最多ではあるものの、生徒募集に苦戦を強いられている現状。

一方で、低所得者に向けた国立大学の学費無償化やそれに伴う私立大学・短大・専門学校の学費援助が検討されるなど、生徒の学びを政府が後押しする動きが見られることや、企業内保育所の増加などによる人手不足などから、「保育業界で活躍したい。そのために進学をしたい」と考える高校生が増えていく可能性もある。

どんな状況でも「選ばれる学校」であるように引き続き努力が必要である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

（今の高校生の動向、進路の傾向は）

阿部委員：全体的に進路の動きが早まっている。具体的に進学先を決めていくのは高校 2 年生以降であるのはあまり変わらない。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- 多くの個人情報(在校生、卒業生、資料請求者)を管理している事から情報管理の徹底を図る。

② 今後の改善方策

- 再度、個人上取り扱いの細則を確認する機会を担任会議、全体会議を活用し設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- 「あそびのひろば」の開催や企業からの依頼を受け、地域貢献ができていると思われる。
- ボランティアの活用が機能していると思われる

② 今後の改善方策

- 継続させる事

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

生徒募集の状況は順調であったが、教育活動においては課題がみられる年であったと考える。

今年度の改善点としてより強く意識をしていきたいのが「生徒満足度の向上」である。

前述のとおり、精皆勤率は向上しており、生活習慣の徹底に向けた働きかけはある程度成功していると思われる。

今年度は「生徒の態度は自己を映す鏡」を重点目標に掲げ、まずは教員の姿勢を見直すことで生徒満足度を向上させ「札幌こども専門学校を卒業してよかった」と生徒が心から思える学校づくりを目指している。

具体的な取り組みとして行っているのは下記の2点である。

①「ホームルーム時の働きかけやクラス運営に関する内部研修の実施」

②「スタディサプリ(WEB 掲示板)を使用した情報共有の高速化」

①については、三幸学園内部より発信されている教材を基に、ゴールデンウィーク明け・夏休み前など節目で生徒に発信する内容の共有、検討を定期的実施することで、生徒の変化に対して布石を打つ狙いがある。②については、情報の伝え漏れやクラス間の伝達のタイミングのずれを防ぐために実施している。今後も実施を継続し、効果を見ていきたい。

今後も多様な価値観を持つ生徒が入学し、今まで以上に個々に合わせたフォローをすることが必要になる。どんな生徒に対してもあきらめずに言い続け、卒業してからも当校の卒業生であることを誇りに思いながら現場で活躍し続ける人材の育成を目指していきたい。

以上